

《キーワード》 不正咬合、矯正歯科治療、抜歯治療、非抜歯治療、マルチブラケット装置、顎整形装置

《担当者名》 飯嶋 雅弘、中尾 友也

【概要】

歯科矯正学では、歯の位置的不正、不調和な上下顎間関係及び口腔機能の異常を要因とする不正咬合の研究や治療に関わる。矯正歯科治療では、ただ単に歯や咬合の問題点だけでなく、顎顔面骨格の形態や成長の制御に焦点を当てる必要がある。質の高い矯正歯科治療を実践するためには、様々な矯正装置による治療に必要な知識と手技を修得することだけではなく、顎顔面の成長発達、咬合、材料科学、不正咬合の診断と治療に関する包括的な知識が必要とされる。

本コースでは、歯科矯正学に関する基礎研究・臨床研究の実践に必要な知識と手技を身に付けるとともに、将来的な矯正歯科認定医の資格取得をめざし、講義・実習によって、不正咬合の疫学、病因、病態、治療法について理解を深め、矯正歯科治療の実践のために必要な知識と技術を修得することである。

【学修目標】

1. 矯正歯科診断と治療に関連する知識を習得し、それを実践できる。
2. 矯正歯科治療に関連する診断ができる。
3. 様々な不正咬合の病態と治療方法を説明できる。
4. 各種不正咬合の診断を実践し、不正咬合の病態と治療方法を説明できる。
5. 矯正歯科学の基礎研究に用いられる手技を理解し応用できる。
6. 矯正装置の構造を理解し、製作、装着できる。
7. 矯正歯科治療の目的と処置法について理解し、症例に応じて実践できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	講義	1) 矯正診断に必要な知識と技術 2) 矯正治療に必要な知識と技術 3) 学会発表及び論文作成 4) 症例検討会の開催(週1回) 5) 基礎・臨床研究論文抄読会の開催(週1回)	飯嶋 雅弘 中尾 友也
2	実習	1) Angle 級非抜歯症例のタイポドント実習 2) Angle 級抜歯症例のタイポドント実習 3) 学会発表及び論文作成 4) 外来見学と治療介助 5) 矯正歯科治療の自験	飯嶋 雅弘 中尾 友也

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席状況、提出物、臨床症例

【教科書】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【備考】

認定医取得に必要な症例数(30症例)の半数以上があること。

【学修の準備】

自己の研究課題について国内外の文献を検索し、文献検討すること。